

発疹

発疹とは 何かに触れて生じるかぶれや、虫刺され、感染症などの皮膚症状をいいます。肌に変化が現れる原因はさまざまです。まずは、身体のどの辺りにどの程度広がっているか、発疹のほかに熱やかゆみ、痛みはあるかなど、子どもの状態を良く観察しましょう。

受診科 皮膚科・小児科

経過を観察するケース

強いかゆみを訴えず、湿疹やぶつぶつもごくわずかな場合はしばらく自宅で安静にして様子を見ますが、気になる場合は受診しましょう。

かゆがる場合には患部を冷たいタオルで冷やす、またかゆみ止めを塗りましょう。温めるとかゆみが増すので気をつけましょう。

受診前のチェックポイント

湿疹や赤い発疹や盛り上がった発疹などはいつ現れたか、その時何をしていたか。

発熱はあるか、ないか。

頭やおなかに痛みがあるか。

食欲はあるか、いままで食べたもの、飲んだもの、薬は飲んでいるか。



子どもに多い湿疹や発疹の種類

発熱を伴わないもの

じんましん 皮膚が赤く盛り上がり強いかゆみがあります。たいてい数十分から数時間長くても、1日でほとんど治ります。

あせも 大量発汗から汗の管がつまり、皮膚下に溜まった状態です。赤み、かゆみを伴うことがあります。

おむつかぶれ おしっこやうんちの中のアンモニアなどの刺激で起こるかぶれです。

水いぼ 小さく光沢のある水疱が特徴です。ウイルスによる感染症で、半年から3年で自然に治ります。

とびひ 細菌が肌に侵入して起こる、かゆみのある湿疹です。まれに発熱することもあります。水疱をつぶすと広がるので、触らないことが大切です。

発熱を伴うもの

はしか(麻疹) 風邪のような症状から高熱が続き、全身に赤いぶつぶつが現れます。

水ぼうそう 赤いぶつぶつからかゆみの強い水疱になり、かさぶたになります。(予防接種をしている場合は発熱を伴わないものもあります。)

風疹 38℃前後の発熱と鮮やかな赤いぶつぶつが特徴。はしかとは異なる病気です。

りんご病 ほおが赤くなり、風邪を思わせる症状や頭痛、関節痛、倦怠感などがあります。

手足口病 口の中や手のひら、足の裏などに痛みを伴う小さな水疱ができる感染症です。

突発性発疹 38～40℃の高熱が続き、熱が下がると全身に湿疹がでますが3～4日で治ります。

溶連菌感染症 のどに炎症を起こし、全身にぶつぶつが現れたり、舌が赤くなったりすることがあります。

上記の病気は伝染性の高いものも含まれます。

医師の指示に従って治療を受けるとともに、登園を取りやめるなど適切な対処を心がけましょう。

湿疹や発疹があるときのスキンケア

受診した場合は、医師の指示に従って薬をきちんと塗りましょう。子どもが患部を触ったり、かきむしったりしないよう、患部を布で覆って保護したり、爪を短く切っておくと良いでしょう。

肌を清潔に保つことも大切です。湿疹がある場所を洗う時は、タオルで強く摩擦しないように気をつけましょう。石鹸を良く泡立てて優しくなでるように洗い、しっかりすすぎましょう。

